

エコアクション21 環境経営レポート

【運用期間: 令和5年8月1日～令和6年7月31日】



株式会社 献崇開発

発行日 令和6年9月13日

目 次

1. 組織の概要	1
2. 環境経営方針	2
3. 実施体制	3
4. 環境負荷の実績と環境経営目標	4
4-1. 環境経営目標の設定	
5. 環境経営計画とその実施状況	6
5-1. 活動計画実施状況写真	
5-2. 環境教育実施状況写真	
5-3. 環境保全活動の実施状況写真	
6. 環境経営目標の実績と評価、次年度の取組内容	10
6-1. 環境経営目標の実績値	
7. 環境関連法規等一覧表及び遵守評価表	12
8. 代表者による全体の評価と見直しの結果	13

1.組織の概要

作成日:令和 5年9月1日

事業者名及び代表者

事業者名:株式会社 献崇開発

代表者:朝倉 和代

事業所所在地

本社:大分県大分市大字中戸次3710番地の2

環境管理責任者及び事務局

環境管理責任者:三重野 結衣

EA21事務局:経理部 朝倉 由貴

TEL 097-598-0110 FAX097-598-0330

事業内容

建設工事(土木、とび・土工、鋼構造物、舗装、しゅんせつ、塗装、水道施設)

事業規模

項目	単位	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
工事等の件数	件	17	15	14	16
売上高	百万円	1,018	793	1,413	824
従業員	人	17	16	15	17
事務所床面積	m ²	224	224	224	224
倉庫床面積	m ²	172	172	172	172

創業・創立

創業・創立(法人設立年月日)

昭和63年9月6日

認証登録範囲

本社(全組織・全事業活動)

事業年度

8月～次年度7月

2.環境経営方針

■ 基本理念

株式会社献崇開発は建設業の事業において、地球温暖化の防止、限られた地球資源の節減等を通じた企業活動を行い、環境関連の法令、条例を遵守します。

また、全社員一丸となり、環境問題に取り組み、常に問題意識を持ち、自己啓発に努めることを誓約します。

■ 行動指針

1.具体的に次の事に取り組みます。

- ① 建設機械の使用燃料及び排出されるCO₂の削減に取り組みます。
- ② 建設廃棄物の発生抑制・削減・リサイクルを推進し、廃棄物の減量管理に取り組みます。
- ③ 水資源使用の削減及び排水の削減・汚濁防止に取り組みます。
- ④ さらなるグリーン購入に取り組みます。
- ⑤ 地域との連携をとり周辺の環境保全活動に取り組みます。

これらについて環境経営目標、環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2.環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

3.この環境経営方針は、全社員に周知するとともに社内外に公表します。

制定日： 令和 5 年 8 月 1 日

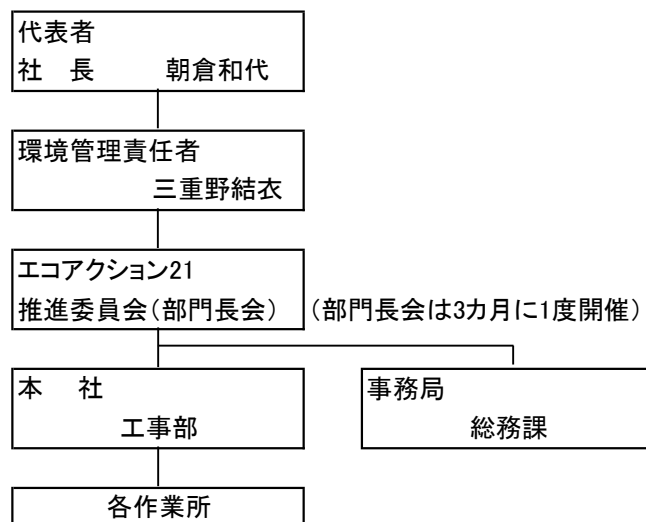
株式会社 献崇開発

代表取締役 朝倉 和代

3.実施体制

作成日：平成 28 年 4 月 21 日
更新日：令和 5 年 8 月 31 日

① EA21組織図



② EA21役割と責任及び権限

	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する統括責任者 ・環境経営に必要な経営資源(人・物・資金)を準備する ・環境管理責任者の任命 ・環境経営方針を定める ・環境経営目標及び環境経営活動計画、実施体制を承認する ・代表者による全体の評価と見直しを実施する ・環境経営活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、運用、管理に関する責任者 ・環境経営システムの運用、管理状況を代表者に報告する ・エコアクション21推進委員会の責任者 ・環境関連法規等の取りまとめ表の承認、遵守状況チェック結果の承認 ・各部門の環境目標、環境経営活動計画、実施体制の確認と全体調整 ・環境上の緊急事態の想定及び対応策の承認 ・問題点の是正及び予防処置の承認 ・環境経営活動レポートの確認
事務局	・環境管理責任者の補佐、エコアクション21推進委員会の事務局 ・環境関連文書、記録の管理 ・環境経営活動に関する実績の取りまとめ ・外部環境コミュニケーションに関する窓口 ・環境経営活動レポートの作成
エコアクション21 推進委員会	・環境経営目標、環境経営活動計画の伝達 ・全社の意思統一、意見交換及び相互・全体評価の実施 ・各部門の実施状況、目標達成状況、問題点などの報告 ・効果的な環境経営活動に向けての提案・意見の交換
部門長	・自部門における環境経営活動及び環境経営活動計画の企画・作成・実施 ・自部門における環境経営活動の実施、目標達成状況を委員会に報告する ・自部門に必要な手順書などの作成、管理 ・自部門の問題点の発見及び訂正、予防処置を実施する
全従業員	・環境経営方針、環境経営目標などの理解と自らの役割を自覚する ・自主的、積極的に環境経営活動に参加する

4.環境負荷の実績と環境経営目標の設定

作成日：令和6年8月1日

1)環境負荷の実績 《基準年度》

当社では令和元年度～令和3年度の平均値を基準年度として以下項目の中長期及び単年度の環境経営目標を設定し、環境活動に取り組みます。

項 目	実績		
	使用量	原単位 (使用量/完工高 百万円)	二酸化炭素排出量
電力の使用量	9,968	13.380	3,897
	kWh	使用量/745百万円	kg-CO ₂
ガソリンの使用量	4,486	6.021	10,408
	ℓ	使用量/745百万円	kg-CO ₂
灯油の使用量	182	0.244	453
	ℓ	使用量/745百万円	kg-CO ₂
LPGの使用量	190	0.255	570
	kg	使用量/745百万円	kg-CO ₂
二酸化炭素 合計		20.574	15,328
		排出量/745百万円	kg-CO ₂
産業廃棄物排出量	940 t	1.262	
	再資源化率100%	使用量/745百万円	
水使用量及び総排水量	57.8 m ³	0.078	
	再資源化率101%	使用量/745百万円	

[注記]

1)購入電力の排出係数は、2021年度九州電力調整後排出係数0.391 kg-CO₂を使用する。

2)ガソリン等、化石燃料のCO₂排出係数は、環境省の資料により下記とする。

- ・ガソリン : 2.32 kg-CO₂/ℓ
- ・灯油 : 2.49 kg-CO₂/ℓ
- ・LPG : 3.0 kg-CO₂/kg

3)産業廃棄物排出量の対象期間のみは通常の年度(4月～3月)である。(上記は令和元年4月～令和4年3月の平均値)

4)水使用は上水である。

5)自社では接着剤・防水剤・塗料等の化学物質は使用していない。

6)原単位に使用している完工高は令和元年度～令和3年度の平均完工高である。

4-1.環境経営目標の設定

作成日：令和5年8月1日

当社では令和元年度～令和3年度の平均値を基準年度として中長期及び単年度の環境目標を設定し、環境活動に取り組めます。

※ 基準年度の原単位完工高は令和元年度～令和3年度の平均完工高(745百万円)より算出している

項 目	基準年度 令和元年度～ 令和3年度平均値	中長期目標 令和6年度	単年度目標		
			令和4年度	令和5年度	令和6年度
電力の使用量	9,968 kWh	9,968 kWh 維持する	9,968 kWh	9,968 kWh 維持継続する	9,968 kWh
原単位 (使用量/完工高百万円)	13.380	原単位 -3%	13.247	13.118	12.990
ガソリン使用量	4,486 ㍓	4,486 ㍓ 維持する	4,486 ㍓	4,486 ㍓ 維持継続する	4,486 ㍓
原単位 (使用量/完工高百万円)	6.021	原単位 -3%	5.961	5.903	5.846
灯油の使用量	182 ㍓	182 ㍓ 維持する	182 ㍓	182 ㍓ 維持継続する	182 ㍓
原単位 (使用量/完工高百万円)	0.244	原単位 -3%	0.241	0.239	0.237
LPGの使用量	190 kg	190 kg 維持する	190 kg	190 kg 維持継続する	190 kg
原単位 (使用量/完工高百万円)	0.255	原単位 -3%	0.252	0.250	0.247
二酸化炭素 合計	15,328 kg-CO ₂	15,328 kg-CO ₂ 維持する	15,328 kg-CO ₂	15,328 kg-CO ₂ 維持継続する	15,328 kg-CO ₂
原単位 (使用量/完工高百万円)	20.574	原単位 -3%	20.368	20.162	19.957
産業廃棄物排出量 (再資源化率)	940 t (100%)	100% 再資源化率100%	100%	100% 再資源化率100%を維持する	100%
原単位 (使用量/完工高百万円)	1.262	原単位 -3%(t数)	1.249	1.237	1.225
水使用量	57.8 m ³	57.8 m ³ 維持する	57.8 m ³	57.8 m ³ 維持継続する	57.8 m ³
原単位 (使用量/完工高百万円)	0.078	原単位 -3%	0.077	0.076	0.075
環境保全活動	現場での 対応	全現場で 毎月、周辺 清掃を行う。	毎月活動する		

5.環境経営計画とその実施状況

作成日：令和5年8月1日

評価日：令和6年8月30日

対象期間：令和5年8月1日～令和 6年7月31日

*評価基準 ○:できた △:改善の余地あり ×実施出来なかった -:対象外

環境方針		取組内容		評価	判定
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減	本社・現場	空調温度の適正化(冷房28度暖房20度)	エアコンの温度調整、フィルターの定期交換が徹底されている	○
		本社・現場	空調器機のフィルターの交換		○
		本社・現場	不必要な時の空調機器・電灯の停止	使用していない機器等の停止が徹底されている	○
		本社・現場	不在時にPCの電源OFF		○
		本社・現場	クールビズ・ウオームビズの徹底	出来ている	○
	車両用燃料の削減	本社・現場	アイドリングストップ	徹底されている	○
		本社・現場	エコドライブの励行(急発進、急加速はしない・定速走行に努める・エンジンブレーキ・エキゾーストブレーキは燃料ゼロ・経済速度走行・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めに)	徹底されている	○
		本社・現場	車両整備による燃費の向上	オイル交換等出来ている	○
		現場	重機・トラック等、不要時のエンジnstop	出来ている	○
		現場	過積載禁止の厳守	出来ている	○
		現場	重機整備による燃費の向上	出来ている	○
		現場	現場の状況に応じた重機の選択	出来ている	○
		灯油・LPGの削減	本社・現場	不必要な時の機器の停止	出来ている
	本社・現場		フィルターの清掃	○	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物の削減	本社・現場	裏紙使用による使用量の削減	出来ている	○
		本社・現場	ミスプリントの防止		○
		本社・現場	ペーパーレス化の推進	PCの共有が活用されてる	○
	産業廃棄物の削減	現場	マニフェストによる適正処理・保管	出来ている	○
		現場	委託先の許可の確認及び契約の確認		○
		現場	分別を徹底しリサイクル率の向上		○
水使用量及び総排水量の削減		本社・現場	節水の励行	出来ている	○
		本社・現場	漏水の定期的チェック		○
環境保全活動		本社・現場	毎月活動する	継続する	○

- ・活動計画の実施は全社員に浸透している。
- ・全体的に良く活動実施された。
- ・今後も継続する。

5-1.活動計画実施状況写真

環境経営方針掲示



現場での取組み



手洗い水をトイレの洗浄に再利用



不必要な電源の停止



空調温度の適正化

5-2.環境教育実施状況写真

【11月度】

◇ 環境教育状況
11月15日実施



【12月度】

◇ 環境教育状況
12月13日実施



【4月度】

◇ 環境教育状況
4月10日実施



【5月度】

◇ 環境教育状況
5月15日実施



【6月度】

◇ 環境教育状況
6月12日実施



【7月度】

◇ 環境教育状況
7月10日実施



5-3.環境保全活動の実施状況写真

【9月度】

■ 環境保全活動状況（公道清掃）



【1月度】

■ 環境保全活動状況（公園清掃）



【5月度】

■ 環境保全活動状況（公園清掃）



【7月度】

■ 環境保全活動状況（公園清掃）



6.環境経営目標の実績と評価、次年度を取組内容

評価日：令和 6年8月30日

対象期間：令和5年8月～令和6年7月

評価基準：○100% △90%以上100%未満 ×90%未満

※ は 原単位(使用量/完工高百万円)の数値である。

(目標値の原単位に使用している完工高は令和元年度～令和3年度の平均完工高(745百万円))

項 目	基準年度 令和元年度～ 令和3年度の 平均値	当該年度 令和5年度 (8月～7月)			
		削減率	目標値	実績値	環境目標の 達成状況
電力の使用量 ※ 原単位	9,968 kWh ※ 13.380	維持 ※ -2%	9968 kWh ※ 13.118	9740 kWh ※ 11.820	○
評価	・啓蒙シール貼付を継続し、空調器の設定温度の周知徹底を維持している。 ・外出時等、各種電源のOFFなど節電の徹底が維持している。 ・クールビズの奨励をし、空調器の節減が行えている。				
次年度を取組内容	・啓蒙シールを継続する。 ・節電意識の周知徹底を継続する。				
ガソリンの使用量 ※ 原単位	4,486 ℓ ※ 6.021	維持 ※ -2%	4,486 ℓ ※ 5.903	4329.38 ℓ ※ 5.254	○
評価	・エコドライブの周知徹底がしっかりと行えている。				
次年度を取組内容	・エコドライブの周知徹底を継続する。				
灯油の使用量 ※ 原単位	182 ℓ ※ 0.244	維持 ※ -2%	182 ℓ ※ 0.239	160 ℓ ※ 0.194	○
LPGの使用量 ※ 原単位	190 kg ※ 0.255	維持 ※ -2%	190 kg ※ 0.250	180.4 kg ※ 0.219	○
評価	・不必要な時の機器の停止、機器の節約が徹底して行われている。 ・ウォームビズの奨励をし、暖房機器の節減が行えている。				
次年度を取組内容	・さらなる節約の浸透化、啓蒙シールの継続。				
二酸化炭素 合計 ※ 原単位	15,328 kg-CO ₂ ※ 20.574	維持 ※ -2%	15,328 kg-CO ₂ ※20.171	14,792.11 kg-CO ₂ ※ 17.952	○
評価	・エコアクション21の活動が社内に浸透し、全社員でエコ活動の徹底を継続して行うことができています。				
次年度を取組内容	・啓蒙シールや社員の意識改革で目標が達成されているので、今後も継続する。 ・現在のエコ活動の徹底はできているので、各自で現在の活動外でできることを探し行うようにする。				
産業廃棄物排出量	再資源化率 100%	再資源化率 100%	再資源化率 100%	再資源化率 100%	○
評価	・再資源化率100%を維持できている。 ・マニフェストによる適正処理がなされている。				
次年度を取組内容	・再資源化率100%、マニフェストによる適正処理・保管を継続する。				
水使用量及び総排水量 ※ 原単位	57.8 m ³ ※ 0.078	維持 ※ -2%	57.8 m ³ ※ 0.076	57.1 m ³ ※ 0.069	○
評価	・節水の徹底を維持して行えている。				
次年度を取組内容	・啓蒙シールや節水の励行を継続する。 ・エコアクション21活動の意識付けを継続する。				

6-1.環境経営目標の実績値

作成日 令和 6年8月30日

項 目	単位	目標値	8月 実績	9月 実績	10月 実績	11月 実績	12月 実績	1月 実績	2月 実績	3月 実績	4月 実績	5月 実績	6月 実績	7月 実績	1年合計
電力 使用量	kWh	9,968	1,245	1,219	922	746	631	565	629	643	664	688	769	1,019	9,740
	kg-CO ₂	3,897	486.8	476.6	360.5	291.7	246.7	220.9	245.9	251.4	259.6	269.0	300.7	398.4	3,808.4
	原単位 使用量/824	13.118	1.511	1.479	1.119	0.905	0.766	0.686	0.763	0.780	0.806	0.835	0.933	1.237	11.820
ガソリン 使用量	ℓ	4,486	409.1	335.2	343.7	376.1	322.1	364.1	399.7	345.2	350.0	365.4	347.5	371.3	4,329.4
	kg-CO ₂	10,408	949.2	777.6	797.4	872.6	747.2	844.6	927.3	800.9	812.1	847.7	806.2	861.4	10,044.2
	原単位 使用量/824	5.903	0.497	0.407	0.417	0.456	0.391	0.442	0.485	0.419	0.425	0.443	0.422	0.451	5.254
灯油 使用量	ℓ	182	0	0	0	20	40	40	40	20	0	0	0	0	160
	kg-CO ₂	453	0.0	0.0	0.0	49.8	99.6	99.6	99.6	49.8	0.0	0.0	0.0	0.0	398.4
	原単位 使用量/824	0.239	0.000	0.000	0.000	0.024	0.049	0.049	0.049	0.024	0.000	0.000	0.000	0.000	0.194
LPG 使用量	kg	190	2.3	2.7	4.3	19.0	38.4	41.0	38.8	22.2	4.8	2.5	2.4	2.0	180.4
	kg-CO ₂	570	6.9	8.1	12.9	57.0	115.2	123.0	116.4	66.6	14.4	7.5	7.2	6.0	541.2
	原単位 使用量/824	0.250	0.003	0.003	0.005	0.023	0.047	0.050	0.047	0.027	0.006	0.003	0.003	0.002	0.219
二酸化炭素 合計	kg-CO ₂	15,328	1,442.9	1,262.3	1,170.8	1,271.1	1,208.8	1,288.1	1,389.2	1,168.7	1,086.1	1,124.2	1,114.1	1,265.8	14,792.1
	原単位 使用量/824	20.171	1.751	1.532	1.421	1.543	1.467	1.563	1.686	1.418	1.318	1.364	1.352	1.536	17.952
産業 廃棄物	再資源化率100%		再資源化率100% (990.56t)												再資源化率 100% (990.56t)
	原単位 使用量/824	1.237	1.195												1.195
総排水量	m ³	57.8	4.9	4.8	4.5	4.7	5.0	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7	4.9	4.8	57.1
	原単位 使用量/824	0.076	0.006	0.006	0.005	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.069

1) 購入電力の排出係数は、2021年度九州電力調整後排出係数0.391kg-CO₂を使用する。

2) ガソリン等、化石燃料のCO₂排出係数は、環境省の資料により下記とする。

- ・ガソリン : 2.32 kg-CO₂/ℓ
- ・灯油 : 2.49 kg-CO₂/ℓ
- ・LPG : 3.00 kg-CO₂/kg

3) 原単位は「使用量/完工高(百万円)」の数値である。

(目標値の完工高は令和元年度～令和3年度の平均完工高(746百万円)より算出)

7.環境関連法規等一覧表及び遵守評価表

作成日：平成28年4月27日

更新日：令和 6年8月30日

関係法令	当社に適用される 要求事項	当社の 対応	届出・ 報告先	管理 責任者	評価時期	証拠となる 記録等	適否
廃棄物処理法 (廃棄物の処理及 び清掃に関する法 律)	産業廃棄物管理票 (マニフェスト発行・管理) 〔法第12条の3〕	排出担当者が 記載 4票を5年保存		本社 工事部	排出後	マニフェスト	○適・否
	産業廃棄物委託契約書 〔施行令第6条の2〕	許可業者と必 要事項記載 し、許可証添 付		本社 工事部	工事契約 後すみや かに	委託契約書 許可証写し	○適・否
	収集運搬車両のステッ カー貼付とマニフェストの 携行 〔施行令第6条〕	排出時確認		工事部	排出時	排出時確認	○適・否
	マニフェストの交付状況 定期報告 〔施行規則第8条の27〕	毎年4月1日～ 6月30日の間 に提出	大分市 産業廃棄物 対策室	本社	提出時	交付等状況 報告書	○適・否
	廃棄物保管場所表示 〔施行規則第8条〕	保管基準遵守	大分市 産業廃棄物 対策室	工事部	届出後す みやかに	届出書 現地確認	○適・否
	一般廃棄物の収集・運 搬・処理に協力	市のゴミ出し ルール遵守		本社 工事部	日常点検	現物監視	○適・否
フロン排出抑制 法 (フロン類の使用合 理化及び管理の適 正化に関する法律)	管理記録簿(フロン排出 抑制法管理記録簿ワーク シート)	本記録簿は機 器を廃棄する までの間保存		本社 (今永 亨)	簡易・定期・ 修理・充填・ 回収・設置 充填	管理記録簿	○適・否
リサイクル法 (資源の有効な利 用の促進に関する 法律)	土砂・コンクリート塊・アス ファルトコンクリート塊のリ サイクル	再利用の推進		工事部	排出時	現地確認	○適・否
	指定副産物、土砂・コンク リート塊・アスファルトコン クリート塊・木材の減量化 及びリサイクル	減量促進及び リサイクルの 推進		工事部	施行計画 作成時及 び排出時	施工計画書 現地確認	○適・否
オフロード法 (特定特殊自動車 排出ガスの規制等 に関する法律)	公道を走行しない特殊車 の排ガス規制	第3次排出ガ ス対策型建設 機械指定制度 表示		工事部	現場到着 時	表示の現地 確認	○適・否
道路交通法	道路において工事を行う 者	道路使用許可 の提出	所轄警察署	工事部	許可受領 後	許可書	○適・否
道路法	道路を占用して工事を行 う者	道路占用許可 の確認	道路管理者	工事部	許可受領 後	許可書	○適・否
振動規制法 騒音規制法 大分市騒音 防止条例	指定区域内で特定建設 作業を行う者は、その7日 前までに市町村長に提出	特定建設作業 の届出	大分市 環境対策課	工事部	届出後	届出書	○適・否

※ 遵守確認を行った結果、違反や訴訟がなかった。

「苦情なし」

8.代表者による全体の評価と見直しの結果

会社名	株式会社 献崇開発
見直し実施日	令和6年8月30日
出席者	代表者：朝倉 和代 環境管理責任者：三重野 結衣
	本社工事部：甲斐 浩二・今永 亨 経理部：朝倉 由貴

環境情報	環境管理責任者の所見	代表者の所見
1.環境関連法規等の遵守状況確認結果	特に問題なく、守られていた。	問題なし。
2.環境経営目標の達成状況	目標達成出来た。	継続する事。
3.環境経営計画の実施状況	環境配慮の意識が向上した。	継続に意義がある。
4.外部からの苦情の有無及び対応結果	苦情は1件もなかった。	問題なし。
5.環境上の緊急事態の訓練結果及び対応処置	訓練を実施した。(実施日：令和6年6月)	問題なし。
6.その他	特に報告事項はなかった。	問題なし。

見直しの必要性判断	
1.環境経営方針	継続する
2.環境経営目標	継続する
3.環境経営計画	継続する
4.環境経営システム	継続する
5.その他の指示	活動を意欲的に行える方法を検討する。

代表者による全体評価
・環境経営活動の維持継続も徹底して行えている。 ・社内でのエコ活動の周知徹底を引き続き行っていく。 ・エコ関連の設備や環境関連工事提案の情報収集を引き続き実施し、環境経営システムが有効に機能し、活動の継続が徹底して行えるようにする。 ・エコ活動の徹底により社員の意識改革ができており、現活動の維持継続は問題なく行えている。また、新たな目標として設けた原単位での目標値も達成できている。 ・原単位は完工高より算出するため、目標値や達成の確認が最終的にしかできないため、エコ活動を意欲的に継続できる方法を検討する必要がある。 ・基本理念の「常に問題意識を持ち、自己啓発に努める。」の精神を継続して、環境への配慮を怠ることなく、今後も積極的に取り組んでいきたいと思います。